

昭和三十三年四月三十日招集
第二回市議会議臨時會々議錄

昭和三十三年館山市議令第二回臨時令議錄

一 昭和三十三年四月三十日午後二時館山市議令第二回臨時令議録
館山市役所分館
會議室に招集

一 出席議員三十二名

- | | | | |
|------|--------|------|--------|
| 一名 | 石井 深 | 二名 | 高橋 文治 |
| 三名 | 伊勢仙之助 | 四名 | 小高 玄義 |
| 五名 | 後藤 中一 | 六名 | 秋山 万次 |
| 八名 | 金本 久一 | 九名 | 安西 政治 |
| 十名 | 田中 龍郎 | 十一名 | 脇田 順一 |
| 十二名 | 吉田 勇治郎 | 十三名 | 中村 良五 |
| 十五名 | 十谷 無達 | 十六名 | 田村 長兵衛 |
| 十七名 | 嶋 重光作 | 十八名 | 佐久 育次郎 |
| 十九名 | 黒川 佐三郎 | 二十名 | 山口 房治 |
| 二十二名 | 荻生 田七郎 | 二十三名 | 十次 豊三郎 |

二三易 福岡保徳 二四易 山東 昇

二五易 松本藤太郎 二六易 可世不才 然

二七易 鈴木 孝 二八易 遠山ヨネ子

三〇易 磯田周雄 三一易 大野浩三郎

三二易 望月隆作 三三易 田中忠 然

三三易 嶋田 肇

一 欠席議員四名

七易 鈴木市 然 一三易 十次 吉 助

二八易 山口 康 三四易 飯田義男

一 法方二五二五条による出席説明員

市 長 田 村 利 男

田 紋 十 出 武 男

田 村 利 男 定 戸 貴

田 村 利 男 羽 山 房 雄

道原書記

渡辺 茂

建部書記

新井 重助

農事系計

山本 林 茂

成金脇水司

長谷川 左治

徳林方二課長

山口 定

徳林方ニ課長

伊藤 幸吉 郎

倉本 課長

神作 啓次 郎

越前本支令
教諭下

工藤 和 平

庶務課長

堀 賢 寛

並査系長

岡 誠 夫

一本議令の事務系長日記

事務系長

高 梨 博 一

書記

大 日 博 雄

一本口の議事日程

日程第一 報告事項 昭和三十三年四月例月報告を報告する。

日程第二 報告事項 昭和三十三年度館山市入札者追加要請の事案は

欠けに同する報告。

日程第三 館山市道路事業管理委員会委員の選定について

日程第四 議案第二号 中型自動車自動車の購入について

日程第五 議案第二号 土地の買収について

日程第六 議案第二号 市道野田川土地の買収について

日程第七 議案第三号 館山市婦人会館建設事業資金金庫の所管について

について

日程第八 議案第四号 館山市市役所各例の一割を減らすについて

日程第九 議案第五号 消防計画は施行令に基いて

市役所指定する各例の一割を減らすについて

日程第十 議案第六号 館山市市入札者追加要請

について

一、本日の会議に付く事

議事日程に同ト

○議長(石井清彦) 本日の出席議員は三十一名に於て昭和三十三年九月十四日附時令
と附令をいします。

○議長(石井清彦) 本臨時会の議長説明のため田村をり、中出助次、定戸總務
課長、羽山商工小を議長、渡辺通幸官理部令書記、新井建設課長
山本を議長、長谷川福祉事務所、山口税務第一課長、佐藤税務第二課長
神作を議長、工藤教員、新井戸務課長、岡田を議長以上
の出席を求めたので御報告をいします。

○議長(石井清彦) 今議事録四番を議員の決定を行います。

お諮りいたします。従来例になつて議長の名に決定をいしますに
御同意をいしますか。

(○議長「はい」と呼ぶあり)

○議長(石井清彦) お田村をりと思ひます。よつて十番議員 田中祐郎君

—— 鉾 山 市 議 会

ニよる議員 松本藤次市君以上御両君に決定せしめしうことに御里入
議よりまじか

(「里入議なり」と呼ぶ者あり)

御里入議なりと認めます よって決定せしめしう

○議長(石井常吉) 今朝の決定を行います

本臨時会員の今朝についで議令達署名協議令の署名員は本日一ひと
まう事になりまう

か決りかします、今朝と議令達署名協議令の署名員の御
決りまうこと御里入議よりまじか

(「里入議なり」と呼ぶ者あり)

御里入議なりと認めます よって今朝はひと決定せしめしうに

○議長(石井常吉) 議案も御布いささします

議案の配布決りまじか

○議長(石井常吉) 本日の議事は、午之に配布の日程表によりに控えしめしう

。議長(石井澤君)日程を報告せられたと程いさいます。

(書記朗読)

報告せられた 昭和三十三年四月例月検査報告口

(監査委員岡武夫君登壇)

。監査委員(岡武夫君)四月十三日の日曜に於いて、その例月検査と実施に
一まつた。その報告書の内容を説明いたします。

一般合計におきまして、収入が千五百十九万円余り、支出が千二百四十三万円(固定資産税が九百七万円、夕陽清浄税の二月分が
百三十三万三千四百円、電気がス税の百八十六万四千円、都市計画税が五十二万
余り、その他が千四百六十九万四千円余の収入、その内訳、地方交付税が
四百五十六万八千四百円、地方交付税の由、合計は五千三百五万
四千四百円入っております。建設費は、建設費として三百一十九万四千円、地方交付税の二月分が二百
万円、千三百三十九万四千円入っております。

建設費の合計は、八百四十九万四千円とおります。その他、口庫支出金が三百

十九万の余程でござります。

尚之程の仕入未清額が三千五百九十九万七千三百三十二円となっておりますが、特別に此方の三月分の納期が四月十五日迄となっておりますので、この金額約一百万円がまだ納期が来ないものと見まう。こゝの差引滞納額が約三千四百八十一万五千つござります。

又此におまうるは次の次の百にお取別を致しておりますが、その内都予計（通算）におまうるは、必入稿のコンクリートのケタ代として四百八十五万の支拂ひをしております。

中ね公園の建設費が四十一万、その他から教員は更ににおまうる九厘の及、便所の増築費として二十万、西や屋敷、今の新築費として二百六万二千円が又研ぎ合せております。

西の上事費は、いづて全額五百七十一万九千円を研ぎ合っております。

又入支出差引をまうるは、二百三十一万二千三百六十九円と剰余金がございます。

この内口民健康保険会計は三〇五万四流用とありますが、そのうち、
現在高は四百二十万二千三百九十九円となっております。尚、現在の増収率
と見ますと、前年度は三十一年度は八十二・九％で、今年度は
八十七・一％となっております。増収率の減少は三十一年度が三十一・五％であり、今年度は
本年度は三十六・五％合計しますと三十一年度は二・三％であり、今年度は三十二・三
年度は七・九％となっております。次に経別会計について、今年度は、
今計で、このうちが、大体この表によつて、却て承いそうだと感じますが、
何と云へば、現在高がやいさうして二百十八万四千一百三十五円となつております。
この内、記帳事務費が、四百五万五千二百二十円、労務費が、十三万五千
九百五円となっております。

口民健康保険会計としましては、この表によつて、大体却て承役だと思ひ
ます。保健科の収入、未清額が、千六百八十八万八千余となつておりますが、これは
三月末で全部が四期が利来いさうです。

然し、先般の同額として三月には、未めりものは、四月になつて多く、金庫

(入るおりまする) 四月の十日頃より入るおります 以上で創月終了
の報告を了せります

の議長(石井深志) 本報エロに御座る様子をいませうか

「田中清一」のまじり

の議長(石井深志) 御座る様子をいませうか

の議長(石井深志) 日程カニ報告カニおまじりて上程いませう

(まじり朝読)

報告を了る 田中清一はまじりておまじりて上程いませう

田中清一

の議長(石井深志) 報告を了るにやませうか

カ一の理由にせしむるは西の方の校のなる所をいふに二百万円はきり

のなる所が、なる所をいふに二百万円はきり

このおぼろ申請にやませうては予算に計とてその予算をいふに

きつは、貸付は来るといふ事、つじが、いましてその決をとつたが、オニの理由で
して、いいます。それからオニの理由と一ちうは地方自治法の施行規則の（
部が改訂になり、つて改訂に伴うつて、この言、例、公布、さい、といふ、こ
ひ、い、ます。それ、オニの、教、に、新、く、く、口有提供施設、所在、町、ね、予、定
ま、付、金、とい、う、が、誤、り、い、ふ、よ、う、で、四、十、三、万、六、千、四、百、五、十、五、と、い、う、で、こ、ひ、い、ます、
こ、い、と、は、入、る、金、が、オニの理由、で、こ、ひ、い、ます、

それからオニの理由と一ちうは、こ、い、に、よ、り、い、う、て、教、の、提、示、を、する、は、要、が、な、つ、て
参、り、い、う、と、い、う、オニ、教、を、オニ、教、に、あ、ら、う、と、い、う、以下、各、教、を、一、つ、つ、得、下
げ、る、事、と、い、う、で、こ、ひ、い、ます、

この、口有提供施設、所在、町、ね、予、定、金、は、金、五、十、三、万、六、千、四、百、
オニ、教、の、市、債、百、五、十、万、に、加、計、と、い、う、と、一、つ、つ、オニ、教、と、オニ、教、の、口、と、口、の、
金、を、金、と、い、う、と、一、つ、つ、オニ、教、の、金、を、入、つ、と、い、う、と、一、つ、つ、更、に、減、り、金、を、金、と、い、う、と、
事、に、な、る、と、い、う、で、こ、ひ、い、ます、す、く、く、お、金、に、入、つ、と、い、う、と、

（記、本、石、井、源、君）本、報、に、お、い、う、と、河、原、君、に、お、い、う、と、い、う、と、

「奥大元」にまゐり

○議長(石井澤君) 専断又か西里人議より認めようかどうかどうかどうか

「奥大元」にまゐり

○議長(石井澤君) 本報も西里大元と認めようか

○議長(石井澤君) 日程カミと上程さします

館山市にまゐり西里大元と認めようかどうかどうか

○議長(石井澤君) 暫時休憩とします 二時四十分

○議長(石井澤君) 再開します 二時五十分

○議長(石井澤君) 本報にまゐり西里大元と認めようかどうか

議長指名時大元により決定せよとせずとします 尚指名者は

議長よりまゐりな動議と認めようか

○議長(石井澤君) お諮りします 只今の十八名議員の理を動議におまかせ

二時五十分

「奥大元」にまゐり

陽台追加として結構なことが出来るので、いよいよお取りかかろうかと
考えています。

○改定(石井源吉) 本築に御里を延びる予定です。

「御里を延びる」

○改定(石井源吉) 御里を延びるものと、改定の本築は、御里を延びることに御里を
延びる予定です。

「御里を延びる」

○改定(石井源吉) 御里を延びるものと、改定の本築は、御里を延びることに御里を
延びる予定です。

○改定(石井源吉) 御里を延びるものと、改定の本築は、御里を延びることに御里を
延びる予定です。

(御里を延びる)

「御里を延びる」

○改定(石井源吉) 御里を延びるものと、改定の本築は、御里を延びることに御里を
延びる予定です。

御里を延びるものと、改定の本築は、御里を延びることに御里を延びる
予定です。

から、御里を延びるものと、改定の本築は、御里を延びることに御里を延びる
予定です。

船政と海岸漁業に出来まいか 都府計画と道路のみに玉里道までの所有が
一帯に亘つて御座います。旧市道から都府計画と道路に通ずる道路が
こゝが私有地になつておりましてこゝを市道に編入して土地は市に寄附さ
けまして道路敷地としてなす直ぐに斯様に充てております。

「異議ない」と申ねる

○議長(石井深長) 異議ない」と認めます。よつて本案は本案通り決定をします。

○議長(石井深長) 以上日程を七議案本オニ九号を上程いたします。

(書記朗読)

議案オニ九号 館山町婦人会館 建設資金寄附受取に付て

○庶務課長(粕谷資人貞君) 本件につきましては当初予算におきまして計上してござい
ます。が別紙の申し書によりまして今回事件議決をお願ひ致したいもので
ございます。

○議長(石井深長) 本案に於て御賛成でございますか。

要議より2の5あり

○議長(石井源吉) 理事の方へと認めます。よろしくお願ひを。理事を通り決定して――

あゝ

議女(石井榮君)次で日程を八議案が三〇分と上程になります

(書記朗読)

議案第三〇号 館山市市税条例の一部を改正するにつて

○程智才課長（山口実君）以上各宜に關係上要占人と認めていただきます

大方程法の一部が、本年四月四日、今日通達いたして、翌日のハ

布さめることにたゞりて、その故にの要人は、このやゝをいふて

一、^二五人^一になる。そのうちいます。

その才一員、自他車リヤカー荷車等に對し、自他車荷車税を六止

すゝことによりまして、二億に上る減収ほゞくるるに、市々ハコ消費税の増上

又、延子か自転車に乗る税を、体であるる。乗車は自転車並のト

①木の自動車の課税客体である二輪の小型自動車及び軽自動車に

たうべきに於て軽自動車税と課する事になつてゐます。

その条項は三百自動車 といからうへに消費税の自保はこの条項のオ九三条にござります。次にオニとてござりますが、此の種の合理化と負担の均衡とをみるるに、此の種固定資産税、木材取引税に所要の改正を加ふるでござります。

その条項はオニ条からオニハ条ニ頃までにあります。

つまり、輕自動車税が全面的に變り、そのついでに輕自動車税の説明にござりて別紙に配布いたす。オニとて輕自動車の所と御覽願います。

オニ条の輕自動車税の納税義務者でござりますが一、其の車加でござります。これは今迄の自動車税と比較しますと自動車税には買主と売主の共有物に課税するといふ事はなから、そのついでに、今度の条項によりて法四百四十五条のニオニ項の規定により、當該輕自動車税が売主及び買主の共有物とな

きいる場合における当該買主と合ひ以下軽自動車税に同じ
 こう改めたいのでついでに

次にオハナ系軽自動車の新車をいいます。一、新車より長く
 から三行目の所に軽自動車とついでに

軽自動車の新車に三三軽自動車。一、農耕作業用。二、その他
 三、二輪の小型自動車。二、いかに米に移管したいと各々の税額で
 ついでに

次にオハナ系軽自動車の新車の日及びその日です。

賦課期は四月一日に二つにわけて、賦課期の納期は四月一日から
 五月一日までとする。但し、オハナ系の規定により課する軽自動
 車税の納期はオハナ系令書に定めるところによります。

本年は法律が四月以降に施行され、関係上納期は五月一日に定ま
 次はオハナ系の改定について

オハナ系軽自動車税の賦課期は右に納期を改定し、其の施行

減額に伴う賦課金を控っておりますが、これは今後自動車は辛給
課税を考へておりますが自動車は所有期間をけりまへるなり
同割課税する事が原則でございます

それとある品目のカチエス等の二つでございます

軽自動車税の納税證の書でございまして軽自動車一の車体
検査は米の陸揚げ所等の検査による同様にその検査の
おのり納税證の書も持たせていかないと検査をうまくいかないとい
う事になりますのでございましてそれに於て納税證の書もを交付
するようになっております 以上でございます

○議長(石井深志君) 本案はなして御存じですか
「異議あり」との発言あり

○議長(石井深志君) 御異議ないとの事ですか、よろしく本案を可決案と通り決
定いたします

○議長(石井深志君) 次に日程第九議案を三〇分と上程いたします

(書記朗読)

議案第三号 □庫中内金等繰越計算法施行令に基いて之を移し

指定する条例の一部を改定するについて

○榎本方議長(山口実人君) 議案第三号について御説明いたします 今週□庫

中内金繰越計算法の法律の一部が改定された関係上本年に於ては

固定税等生活 却る計也移の繰越標準 並に繰越に国庫中納

金等繰越計算法を施行したてゝとてつづきますが 今回法律の改定

によりまして標準が改定されたので改定を以て思ふのでつづきます

内容につきましては要りなく従来通りであります

○議長(石井深居君) 本件におき—御賛成の方を言いますか

賛成 〇

○議長(石井深居君) 御異議あるかとお聞きしますか

異議 〇

○議長(石井深居君) 御異議あり—と認め本案は原案通り決定いたします

○議長(石井深君)次で日程第一。御案を三三三と上程いたします。

(書記朗読)

議案三三三 昭和三十三年の館山市入札出追加入札の事

○議長(石井深君) 増例によりまして出札から説明いたします。

○庶務課長(鶴沢重光君) 教える事におきまして四万円をお預け願います。

これは四月の六日に安房一高におきまして開かれます。全日本土木道大令

岡田本平道と本岡本道主権大令とアジヤ大令の岡田本平道と本

岡田本平道と本岡本道主権大令とアジヤ大令の岡田本平道と本

子安本平道と本岡本道主権大令とアジヤ大令の岡田本平道と本

おりましてこの費用の一部にあてゐるに四万円を計上したわけであります。

○農林統計課長(山本林彦君) 本年度経済費について御説明いたします。

農林費について三十三の計上しておりますがこれは神戸、西神戸、西神戸

砂や造林、事業費、入札費、委託金でござります。

新設の山道、利用路費として十六万円計上しておりますが内十万円は計画費と推

三万八千円でございます。

諸手当は送金了り費約三万人の超過勤労手当でございます。
次の旅費は四万五千円、千歳へ二回分運送に参りますのでこの金
が一万五千円、市内出張旅費でございます、要するものの総額は
三万八千五百円でこの内報償費は五日半日と婦人会から送金
旅費は運動に功績顯著と認められたもの、報償費として二万五
千円、現金は臨時用人六人一月分消耗品は模造紙、鉛筆、画紙、
演説会のカスター、燃料費、投票所の湯水、南木交入、いかにソ
レでございます。

食糧費は好農協管理をま令し、南木事務所より弁当及び米
菓をばてております。

印刷製本費は一萬五千円、入場券、到着券、札、その他、通信
送服費二千円は館山市の名義に請求した人、他市へ転入して
三月たつた場合にはこのようから向うの送金手管理をま令し

の方へ通知をせしむる通信料でしるべきです

十一節の六ヶ科は新聞社等の六ヶ科十社千円で四社分でしるべきです
借料は預料の一万五千円は貸金所の民有の金を借りたものか否か
とふらう。借りしきすてその借上料を千円でしるべきです。筆耕料は
料の三千五百円は補給金を送る人名義に入場券を千円の筆耕料でしる
べきです。修繕料の一万円は貸金所へ納めし着及等の破損修理費
でしるべきです。

十二節の備品費は十六万円は収票に附金属製のものゝ大と三個中
と三個記載名四ヶ科を三人科と二個入用と四個買収といふ
思ひます。十六万円計とせしめしめし。

十六節の燃料費は一万三千円は出金場示取用の燃料費と
しるべきです。

の程三課長(伊藤孝太郎君)諸君を金の出金程費とせしめしめし
報償費人におきまして八万九千円は他程細合の非費をた増加して

その根據は地方財政特別措置法令第十四条の二第四項にござります
国が前項割當と異向の場合の当該工事―に對して負擔金も
出さずといふ―の時、当該負擔金の割合は發減―ない―。この条又
さ果が該五項いふ―を償ふ―に好意的に2%を引くものとあります
が、これがやむといふ事でありまして、十二萬圓の工事費の2%即ち
二萬四千元が二萬六千圓の負擔を償ふ―に充てられ、
二百四十萬圓の爲に二十四萬圓の還金度分の事業費負擔金と生ずる
から、今、今回三十萬圓を追加すべし、いたのでござります。

總務課長(ととくきょ) 兼土蔵の財産費及び、
このは市の財政の都合により、昨年度に引続きまして、
例の居住復興之負担金として繰りましてものでござります。

以上多數合計九萬七千六百三十圓にござります。

次は、申上ります、が、市税の中、従来市税と
して取扱ひされておりました、自転車、荷車税が、中止されて

その爲に自動車税で二百六十三万九千九百円、自動車税五十二万三千八百円の減となり、すなわちその差額に今までは旧税であつた農耕作業用と三輪小型の自動車、大型の軽自動車税として、全面新法に百三十三万一千四百四十円と追加計上したものと比べています。

それからオムツの市のたばこ消費税でございしますが、これは自転車、荷車税に止りみかえりといふことで従来9/100の税率が百分の一となり、更に二%増高となり、その増高十一万円の税額、三百六十二万四千五百九十円と追加したものでございます。それから滞納保険料分の自動車、荷車税として四十三万七千六百円は、これは旧法による税として全面オムツ税に計上したものでございします。

それから大蔵省の国庫入金金のうち、新田辰山税、村集費、補助金が四万七千五百円に上ります。これは一割分の計上

樹立推進費補助金として参りましたものと計上いたしまして
たわがてございませう。

それから第三項の委託金五十八万四千三百八十円は衆議院
議員、最高裁判所裁判官の選挙に因するものでござい
ますが、支出金額を支出として計上いたしたものでございませう。

第七款果ては支出金の二十万円はこれは終戦後果ては着手いたし
ました平砂浦の造杯事業が一先づ完成いたしましたので、この
完成式と開催いたす費用として果ては二十万円補助がござい
ましたので、これを計上いたしたものでございませう。

第八款 寄附金の一万円は七月五日から八月末日まで北海
道に開催される博覧会令に出品する市内の八業者からコマ
代としての寄附金でございませう。以上支出合計百九十九万七千
六百三十円になります。

○議長(石井榮君) 本業に対して御質疑ございませうか。

〇三三〇(翌月曜作君)市民税の減額をうけた理由をお願ひします

〇税務才課長(山崎実君)市民税の個人所得割十三万三千三百四十円減額
 されておりますが、当初予算の算定市民税の所得割と多額
 合に税率改定の際、百分の十九でもって一応計算した額で
 すが、またよ条別改定が通過しない関係上、百分の十八・五と
 なつたためでござります。一ヶ月のちいさくして一応これだけ

の財源は確保したか、たという線ではございまして、やむなく当分の
 状況から非常にも高率の収入を合を計して予算を編成
 したものでござります。その後税率の方の改定としまして

三月十五日の確定申告の際の状況を聞きますと、依然として
 収入改定は昨年より良くないと、その内訳を申しますと、税務
 署できめた三十一年度三十二年度所得割の関係もきいた
 のでございまして、所得税の人員において二十六%の減、所得
 額におよ一%の減、所得税額におよ三十三%の減というところ

きいたのでございますが、これは営業者、農業業者、税理士、
弁護士、一般の勤労者は入っていないのであります。

当時の状況といったより、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
度の所得税額に対して三〇%の減に上つたのでございます。
そういう予算を編成した当時とその後の状況は著しく
変つた関係上、収入歩合も更に約一%位下げて計上されて
ございます。以上でございます。

〇二二番（森田君） 県補助金の関係ですが、県補助金の
二十万円とあつて造林のお祝でありますが、これは予算算
の説明によりますと、お祝いの費用として金十万円ともら
いまして、どういふ事ですか。

〇農産統計課長代理（山本林君） お答えいたします。県の二十万の
補助金は、果と一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
という名目でお出しということになつておりまして、一部造林と

実施せらるゝ

○二五(荻生田七郎君) これは果と市の共催ですが

○農産統計課長代理(山本林松君) そうです

○二五(荻生田七郎君) 委託金はいどの様になつていますか

○農産統計課長代理(山本林松君) 一六名の外部団体と作りうてました

交付するやうでございます

(「異議あり」と呼ぶものあり)

○議長(石井潔君) 御異議なくと認めます、よつて本案は原

案通り決定いたす

○議長(石井潔君) これはもちろつて今日の議案は全部議了

いたす、これをもちつて閉会いたす

午後 四時 二十分

右全議の次第と録しここに署名す

昭和三年四月三十日

館山市議会議長

石井 潔

同 議會議員

松本 忠郎

同

田中 祿郎

一 館山市議会

